

第4話 インドの高橋英樹

タージマハールはムガル帝国時代最も隆盛を誇った皇帝シャージャハンがお妃のために作った壮大な霊廟なのですが、ここで出会ったインドの人達がまた忘れられません。

タージマハールのあるアグラの町にはシェラトンホテルがあり、ここでいつもお茶をして寛いでいたのですが、このコーヒーショップに居たんです高橋英樹が。シャンカーシンというインド人のウエイターなんですけど本当に似ているのです。一緒に行った奥様連中（もちろん年齢はやや高めですが）が写真を一緒に撮りたいと言って毎回大騒ぎになるので、不思議がる彼に『貴方は日本の有名な映画スターとそっくりなのです。』と説明してあげました。

タージマハールには何度も行ったので、高橋英樹ともすっかり親しくなり、家でご馳走になったり、本当に親切にしてもらいました。次はいつ来るのかと必ず聞くのですが、その言葉には心がこもっていました。

しかしこんなインド人ばかりでは勿論ありません。アグラの駅に着くと観光タクシーの客引きに取り囲まれます。そのうち良さそうな二人組（老人と若者）を選んだのですが、その次に訪れた時またこの二人がいたので頼んだら、最後に料金を払う段でふっかけられ、最初の話と違うともめました。老人の方がかなり悪質でした。最後に「僕はインドが好きで沢山の友達も出来たがあなた方のような人は初めてでありとても残念だ」と言って別れました。シャンカーシンに話したらその後は彼が車を手配してくれるようになったのですが、それからある時、アグラの駅で帰りの汽車を待っていたら向こうのホームから線路を渡ってくる若者がいて例の二人組の1人でした。彼は「こないだは本当にすまなかった。どうか許して欲しい。」と言ってポロポロ泣くのです。この時はキャビクルーの子たちと一緒にいたのですがキャプテンがインド人を泣かしていると驚いて見ていたそうですが、僕も大の大人に泣かれて困ってしまいました。

